

患者や親も社会参加

家で暮らせる 小児の在宅医療 ④

蒼生ちゃん(5)が診療所の訪問診療を受けている。稲生会が2013年の設立と同時に始めた生涯学習講座「手稲みらいづくり学校」の一環だ。

生活の転機

院内にアロマオイルの心地よい香りが漂う。医療法人「稲生会（札幌市手稲区）のオープンスペースで昨年12月半ば、アロマ講座が開かれた。訪問診療を受ける患者の母親6人が風呂に入れるバスソルトを作った。講師は札幌市東区の主婦関友子さん(32)で、長男の



「手稲みらいづくり学校」のアロマ講座。作業しながらの会話が参加する母親たちの楽しみでもある（稲生会提供）

て、日常生活の転機となった。蒼生ちゃんは仮死状態で生まれ、今は人工呼吸器を着け、自宅で暮らしている。付きっきりで介護していると、漠然とした不安を覚えることもあった。「自

ママ友交流

分は一生このままなのだろうか」そんな時、講師を引き受けた。アロマやリンパセラピストの資格も取得しているため、「ママ友」から「ア

て始めた。母親たちは作業をしながら、障害児の公的な支援制度の情報交換をしたり、育児の喜びや苦労を語り合ったり。関さんは同じ境遇じゃないと分かり合えないことを話せる貴重な場。帰宅すると、また頑張ろうと思える」と笑顔を見せた。

稲生会は昨年4月、「学校」の活動を拡大。札幌市中心部にある「市民活動プラザ星園」の一室に、「手稲みらいづくり学校」も開設した。月1度、患者家族らが参加する生涯学習講座や茶話会を開いている。地域の誰もが気軽に立ち寄れる場にしたという。

「意見・感想お寄せください」

連載にご意見や感想をお寄せください。住所、氏名、年齢、電話番号を記入の上、〒060-8711（住所不詳）北海道新聞社報道センター「生・老・病・死」係へ。電子メール sapporo@hokkaido-np.co.jp、ファクス011-210-5506でも受け付けます。

（おわり）